

令和6年度 学校安全総合支援事業「全国成果発表会」

令和6～7年度 岐阜県教育委員会・飛騨市教育委員会 指定事業

「地域と連携・協働した安心・安全な学校づくり と児童生徒の実践力の育成」

～ 飛騨市学園構想と古川中防災マイプロの取り組みを通して ～

インプット



ゲーム型防災研修プログラム「風水害24」

実践



「避難所設営訓練」
災害対策用プライベートルーム設置

アウトプット



自作の「防災クイズ」で小学生に学びを伝達

R7.2.13 飛騨市教育委員会・飛騨市立古川中学校

飛騨市 岐阜県最北端に位置する少子高齢化の進む過疎地



<飛騨市の基本データ>

総人口 … 21,877人

(高齢化率 40.42%)

面積 …… 792.53km²

【2024年4月1日現在】

<飛騨市の小中学校>

【小学校】

古川小学校418名

古川西小学校

河合小学校

宮川小学校 8名

神岡小学校

山之村小学校8名

合計 957名

(R6.11月)

【中学校】

古川中学校379名

神岡中学校

山之村中学校4名

合計 508名

(R6.11月)

※青字の学校が古川中校区

市内の小学校は6校、中学校は3校、
小規模校が多く、3中学校間の距離が遠い。

“飛騨市学園構想”とは

社会総がかりで、予測困難な時代を生きる子どもたちに、「**幸せな人生と持続可能な社会の創り手となる力**」を育むために、飛騨市教育委員会が進める地域教育魅力化プロジェクトです。



飛騨市学園構想「第2章」 令和5年度～7年度

「みんなで育てみんなが育つ魅力あるまち」の姿とは？



「大人も子どもも面白がって遊び、 チャレンジが多発している地域」



飛騨市「学校安全総合支援事業」の概要

項 目	年度など	取 組 内 容（活 動 内 容）	実施時期
期 間 (2年間)	R 6～7年度	・ 拠点校での避難所開設・運営訓練（生徒参画） ・ 防災教育を軸とした実践と事例集（リーフレット）作成 ・ 実践交流と、危機管理マニュアル等の見直し	通 年
拠 点 校 取組内容	拠点校	古川中学校（避難所開設・運営訓練の授業公開） ・ 発電機、防災食を活用した学習や体験活動など ・ 防災教育を軸とした教科横断的な学習の実践	通 年 ※避難所開設・運営訓練は、中核教員が参加予定
	中核教員	<u>年2回の実践委員会</u> 、避難所開設・運営訓練の参加	
	各 校	・ 防災教育を軸とした教科横断的な学習の実践 小（国語）、中（社会）＋各校で実践（1～2以上）は必須	
避難所開設 & 防災タウン ウォッチング	関係機関	吉城高校、飛騨神岡高校、飛騨吉城特別支援学校 市の危機管理課、防災士会、警察署・消防署など	11月10日
	家庭・地域	市の避難訓練、防災タウンウォッチングへの参加 防災の備えや家庭DIG訓練等＋任意の探究フェス参加	9～11月

※ 拠点校における防災教育や、命を守る訓練の実施等のねらい、内容、時数は学校で決定する。

※ 「防災教育を軸とした教科横断的な学習」で小学校（国語）、中学校（社会）の実施は必須。

飛騨市学園構想「カリキュラム部会」の取組

「防災教育MAP」の作成・充実、「各校の防災教育の実践事例集」づくり

飛騨市学園構想 防災教育MAP

目指す未来の作り手像 志を語り合いしなやかに挑み続ける 飛騨びと

有事

災害が起こった時

保育園・幼稚園

指示に従って動ける



〈地震発生〉
「机の下に隠れて頭を守って」と先生が言うと、子供たちは騒がず指示通り身を隠す。

小学校低学年

指示に従って
素早く安全に行動できる



〈大雨特別警報発令〉
大雨特別警報発令に伴う緊急下校。保護者の迎えに備え素早く身支度を整え騒がずに集団で体育館で待機する。

小学校高学年

何が起こるかを予測し、
自分の身を守る行動を
取ることができる(自助)



〈地震発生時〉
休み時間に地震が発生。近くに先生がいなかったが、危険なものから離れ、グラウンドの中央に集まるよう周りの同級生や下級生に声をかけた。

中学校

安全な避難のため
自分で判断・行動し、
周囲の人のサポートにも
関わることができる(共助)



〈近隣エリアに緊急安全確保が発令〉
自宅にて、土砂災害の恐れにより隣接する地区に緊急安全確保が発令。家族と協力し、近隣住民へも声をかけ自他ともの安全確保のための行動をとる。

高校

自分自身だけでなく
周りの人の安全のため
適切に判断・行動する
ことができる



〈避難所が開設〉
断続的な大雨の中、家族とともに避難所に避難。避難準備が十分でなかった他の避難者に防災備蓄品を配布したり、中長期的な避難生活を見据えプライバシーの守れる個室の整備などを自発的に行う。

平時

普段の生活の時

自分のこと
自分のことを自分でできる

周りのこと
話をしっかり聞ける

防災で目指す姿
生活の中で
「危険なこと」がわかる



身辺自立

自分のこと
ルールを守って行動できる

周りのこと
周りの人を気づかうことができる

防災で目指す姿
安全な場所や避難場所について知っている



規範意識

自分のこと
どんなことが起こるか想像し
行動できる

周りのこと
周りの人と協力できる

防災で目指す姿
まちの地形や過去の
災害について知っている



計画力
見通す力



情報収集力



想像力

自分のこと
状況を正しく理解し、よりよい
方法を選択し行動できる

周りのこと
周りの人と協力し
問題を解決したり
改善したりすることができる

防災で目指す姿
自然災害の歴史や発生する
仕組みについて理解し
発信することができる



課題設定力



情報分析力



思考力
判断力



表現力

自分のこと
自分の行動に責任を持てる

周りのこと
周囲のため地域のために
自分に何ができるかを考え
主体的に行動できる

防災で目指す姿
自然災害の発生の仕組みを
理解し、防災や減災のために
行動できる



実行力



振り返り
改善する力



社会で生きて働く
課題解決力

命を守る訓練

具体例

総合・教科等

古川中「防災マイプロ」(1年生:総合的な学習の時間)

この取組が始まった「きっかけ」

- 校区4小学校における「防災教育」の実施・充実【飛騨市学園構想】
- 3年前より「地域貢献(マイプロジェクト)」のスタート【カリマネ】
- コロナ禍を経て官民、地域とのより連携強化【地域学校協働活動】

この取組の「確立と加速」

- R6～7学校安全総合支援事業の指定【飛騨市の拠点校】
- R6「防災マイプロ」のカリキュラム(マネジメント)の確立【カリマネ】



学年教員と関係機関とのミーティング

防災の学びは、地域をより深く知り、どう関わることができるか考え、取り組む「課題探究活動」である。さらに、地域社会の一員として、「地域貢献」につながる。

大正大学地域創生学部 浦崎太郎 教授(R6/5/27「防災マイプロ・キックオフ」にて)

「防災×〇〇」の探究学習

「防災×食」 防災で学んだことを活かして、栄養面や衛生面を考えて非常時の食事について考え提案する。

「防災×ゲーム」 防災について自分たちが学んだことを「クイズ」「すごろく」などにして園児や小学生に広めていく。



防災士と協働作業(ダンボールベット)

連続性・系統性を意識したマイプロジェクトの「カリマネ」

テーマ

○未来の創り手となるために
～地域とともに、自分づくり～

学校運営協議会（学校支援部 地域活動部）

2年生 ～地域と深く関わる～【職】

【6月：仕事調べ どんな職業があるのかを調べる】
【7月：14歳 HW 講話から働く意義を学ぶ 興味をもった仕事リサーチ】
【夏休み：イベント参加・職場リサーチ 各自での自主的な活動】
【9月：職場体験 実際の体験を通して働く意義を実感する】
【10月～：職業人と考える飛騨市 商工会や企業へ考えたことの発信】

様々な仕事を通して地域と深く関わり、地域に貢献する人の思いや生き方から考える

【資質能力：強い心で何事もあきらめない力（思考と判断を生かして）を身に付ける】

1年生 ～地域をもっと深く知る～【防災】

【6月～：自分の地域紹介 小学校で学んだこと+α 新しい仲間の魅力】
【7月～：防災教育 防災についての知識を学ぶ 北平防災士 Edo】
【夏休み：地域にでかけよう！ 地域防災の】
【9月～：地域防災調べ（探求隊） 地域の現状を考え、より深く知る】
【11月～：地域への発信 調べたことのまとめ→地域、小学生等へ発信】

防災を通してより深く地域を知り、地域を守る人々の思いや生き方から考える

【資質能力：情報収集と情報分析をもとに探求する力を身に付ける】

3年生 ～地域に深く貢献する～【未来】

【6月：未来への講話 飛騨市役所等の方・近い未来の先輩】
【7月：明るい未来へ 幸せな飛騨市に向け取り組む人々調査】
【夏休み：「未来の飛騨市」へ 興味をもってイベント参加】
【9月：修学旅行 訪問先で生きる方々の思いや生き方を知る】
【10月：地域への発信 神岡中・議会】

地域や日本、世界に貢献する人の思いや生き方を知る
【資質能力：自らの考えを実行し、さらに挑み続ける力を育てる】

アウトプット《表現力》

【表現力を高める：Edo】

1年：小学生・展示

2年：企業・商工会

3年：高校生・議会・神中

?をもち続ける《創造力》

【創造力を高める：JC】

探求し続ける《レジリエンス》

【レジリエンス力を高める：防災士】

自分らしさのレベルアップ

未来の自分を描く（将来こんな大人になりたい）

○自分の長所を生かして、さらに伸ばしていく

《地域・保護者》

《仲間》

《先輩・教師》

自分づくりを確かめる

自己評価 他者評価（仲間・教師・地域人）

「古川中マイプロ」実施プロセス ～インプットからアウトプットへ～

キックオフ→マイプラン(企画設計)

※この時点で「マイプロ」に取り組んでいる生徒もいる

地域・行政から
参画・出役依頼

マイプランに沿った取組(実施準備)

- ・総合的な学習の時間(ペア・グループ、学級を超えて)
- ・打ち合わせ(市役所や民間企業)※電話、現地
- ・放課後、市役所や観光協会等にてレクチャーを受ける。
- ・長期休業日や休日(祝日)を使って協働活動をする。



防災マイプロ「キックオフ」

地域等(各自のフィールドで)マイプロ実施

休日(土日・祝日)

長期休業日

平日(授業・放課後)

平日(夜間)

プレゼン等の提示資料の準備

アウトプット(様々な人々、多様な場)

対象
場所

園児・児童・生徒

地域住民

教授・大学生等

地域行事・イベント

保育園・学校

探究フェス等



1年生「防災マイプロ」報告
(市教委主催「探究フェス」)

「防災マイプロ」① ～ インプットから企画へ ～

防災の知識・技能を身に付け、自分で何ができるか考える

生徒たちが、防災を「自分事」として捉え、自分の地域や学校をフィールドとして知識や技能を学びました。防災の指導者をお招きし、講話やゲーム、熟議を通して学びを深め、自分の得意や好きを活かして何ができるか、どう取り組むかを創意工夫し、実践を進めました。



主な連携・協働団体

飛騨市防災士会 (株)Edo
飛騨市役所危機管理課
飛騨市教委学校教育課
飛騨市消防本部
古川中学校運営協議会



防災シミュレーション「風水害24」
進行 (株)Edo職員、細川翔大さん



「ジュニアパラメディック」訓練
指導 飛騨市消防本部



災害への備えを考える班別熟議
指導者 (株)Edo職員



「砂防ダム」のメカニズムや役割を学ぶ
奥飛騨さぼう塾(高山市奥飛騨温泉郷)

風水害24のファシリテーターとして、みんなの役に立って嬉しかったです。これから、防災士の資格をとることに挑戦していきます。(生徒)

「防災マイプロ」② ～ 実践 ～ 「避難所設営訓練」

防災の学びを活かして、地域の一員の意識で「参画」する！

これまでに学んだ防災の知識・技能を活かし、自分は地域の一員であるという意識で、自分のできることを考え、訓練に「参画」しました。市役所や市防災士会、市調理師会、多数の企業や地域の方々のご支援を受け、生徒が自分事として、よりよい体験ができました。



主な連携・協働団体

(一社)避難所・避難生活学会、
飛騨食品衛生協会南吉城支部、
柏木工(株)、折長段ボール(株)、
(株)ニード、(株)タニモト、
(株)ドローンコンシェルジュ、
市役所危機管理課、
市防災士会、学校教育課



防災トイレの設営



防災食の調理(補助員)



大型ドローンの荷物運搬見学



参加者との意見交流会

避難所設営を担当し「段ボールベッド」を組み立てました。ベッドを丈夫にする工夫が分かり、私たちの作成に大変参考になりました。(生徒)

「防災マイプロ」③ ～ アウトプット、そして地域貢献へ ～

学び・実践を、伝える相手に応じて工夫してアウトプット!

防災の学びをいかに「自分事」として捉え、自分が誰に、何を、どう伝えたいのかを考え、アウトプットを計画しました。対象者を、公共施設、保育園・小学校、高齢者施設等として、**自分たちの学びを工夫して伝えました。**(2月現在も取り組みが進行中です。)



主な連携・協働団体

- ・古川小、古西小、河合小、宮川小
- ・さくら、宮城、増島保育園
- ・市役所危機管理課、総務課
- ・市観光協会 ・(株)ねこパブリック
- ・特養老ホームさくらの郷 他多数



防災アウトプットin古川小学校
生徒作成「防災カルタ」で学び合う



防災アウトプットinさくらの郷
生徒自作「防災の歌」を披露する



防災アウトプットinねこパブリック
作成した「防災パンフ」を届ける



防災アウトプットinさくら保育園
生徒作成「防災〇×ゲーム」

うまく説明できるか不安だったけど、保育園の子たちが説明を聞いてくれて、「わかったよ。ありがとう。」と言ってくれて嬉しかった。(生徒)

「防火体験学習」～ 自他ともに命を守る訓練 ～

防災マイプロで、日常からの危機意識が向上！

全校生徒が、防火に関する様々な学習や体験を通して、防火および減災を自分事として考え、万が一の時には、「自助」、「共助」、「公助」の意識で活動できるような心を養うことを目的に体験学習を実施しました。さらに、定期的な「シェイクアウト」における生徒たちの姿は、まさに防災（マイプロ）の学びによって、日常的な危機意識を醸成しています。



全校「いのちを守る訓練」
避難場所、経路の確認



全校「防火体験学習」
冷静に連絡を！「119番体験」



全校「防火体験学習」
落ち着いた行動を！「煙体験」



全校「シェイクアウト」
授業中の地震を想定した訓練

特に大事なことは、「冷静さ」です。通報する時、起きた時、焦ったらダメ。
常に冷静に行動することが必要です。貴重な体験でした。（生徒）

「防災マイプロ」及び「マイプロ」成果と課題

○「地域（貢献）」への熱い思いの高まり

令和6年度「学テ生徒質問紙（中学3年生）」令和5年度「CSポートフォリオ」では、地域との関わりで以下のような項目で高まりが見られました。 ※現中学3年生は「防災教育」本格スタートの初年度の生徒たち

学テ質問紙：人の役に立つ人間になりたいと思いますか？

→「なりたい（肯定）」 R4**93.1%**→R5**95.4%**→R6**98.3%**

学テ質問紙：地域や社会を良くするために何かしてみたいと思うか？

→「そう思う（肯定意見）」 R4**47.0%**→R5**83.6%** →R6**91.6%**

CS子38：自分も地域の人役に立ちたい！

→「そう思う」 R4**72.9%**→R5**91.7%**

CS30：地域のために自分には何ができるか考えることがある！

→「そう思う」 R4**56.6%**→R5**69.8%**

ここ3年間の「マイプロジェクト」の取り組みによって、保護者、地域住民の「マイプロ」への理解（認知）が進み、生徒たちの積極的に取り組む姿勢を高く評価していただき、さらなる期待もいただいています。



パーティションの組み立て
「避難所設営訓練」



ストレッチ体操の紹介・実演
防災アウトプットinさくらの郷

「防災マイプロ」及び「マイプロ」成果と課題

●「持続可能な活動」のための組織体制確立

マイプロジェクトは、総合的な学習の時間（の35時間分）に実施しています。1年生「防災マイプロ」、2年生「職業マイプロ」、3年生「地域貢献」のカリキュラムをマネジメントし、改善しながら推進しました。持続可能な活動に向けて、「組織体制の整備」が必要です。

●「防災マイプロ」で付けた力を「授業」や「行事」に活かす

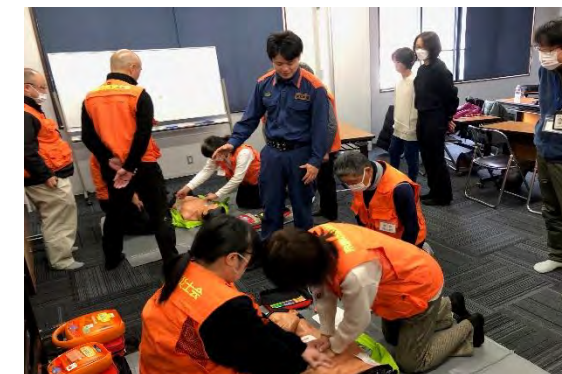
「防災マイプロ」で学んだ知識・技能をアウトプットまでつなげたことによって、生徒たちの表現力や創造力等が高まりました。この力を「防災教育を軸とした教科横断的な学習」に活かすこと、さらに付けた力の「往還」を意識して、カリキュラムを進めていくことが必要です。

●地域と学校の連携強化

このプロジェクトの認知度が高まり、地域からの要望（情報）が多数届くようになりました。こうした参画機会の増加は、生徒の有用感や存在感を高め、個々の「貢献意識」も高まりました。より連携強化の重要を認識し、日頃からの情報交流を進めていきたいと考えます。



2年生「職場体験」前研修
「工事現場へGo!」(市内神岡町)



飛騨市防災士会主催
「防災士の救命講習会」

古川中1年「防災マイプロ」～ 地域をもっと知る ～



飛騨市防災士会 飛騨市役所危機管理課 (株)Edo

令和6～7年度 学校安全総合支援事業(市教委)

インプット 【防災の知識・技能を身に付け、地域を深く知る。】

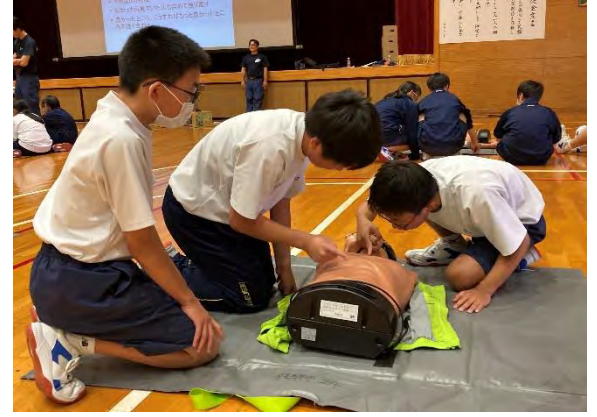
生徒たちが、防災を「自分事」として捉え、自分の地域や学校をフィールドとして知識や技能を学びました。防災の指導者(スペシャリスト)をお招きし、講話やゲーム、熟議を通して学びを深め、**自分の得意や好きで何ができるか、どう取り組むかを考え、実践を進めました。**



R6「防災キックオフ」
特別講師 浦崎教授(大正大学)



R6 防災シミュレーション「風水害24」
進行 (株)Edo 職員、細川翔大さん(1D)



R6「ジュニアパラメディック」訓練
指導 飛騨市消防本部

実践「避難所開設訓練」【防災の学びを活かして、地域の一員として「参画」する!】

11月10日、生徒たちが、前期に学んだ防災の知識・技能を活かし、飛騨市避難所運営協力防災士の皆さんと共に、**自分たちが「貢献」できることを積極的に取り組みました。**



(一社)避難所・避難生活学会、飛騨食品衛生協会南吉城支部、柏木工(株)、折長ダンボール(株)、(株)ニード、(株)ドローンコンシェルジュ、(株)タニモト、飛騨市教育委員会、危機管理課、市防災士会



「災害対策プライベートルーム」の設営



「防災食」の調理補助



「防災トイレ」の設営

アウトプット 【防災の学びを、伝える相手によって工夫する。】

防災の学びをいかに「自分事」として捉え、自分が誰に、何を、どう伝えたいのかを考え、アウトプットを計画しました。対象者を、公共施設、保育園・小学校、高齢者施設等として、**自分たちの学びを工夫して伝えました。**(写真は R6. 12月までのアウトプットの様子です。※今後も進行中です。)



園児がゲーム感覚で「防災」を学ぶ
災害を避け仲間・お年寄りを「避難所」へ



防災マイプロ「アウトプットin古川小」
生徒作成「防災カルタ」で学び合う



防災マイプロ「アウトプットinねこパブリック」
工夫して作成した「防災パンフ」を届ける